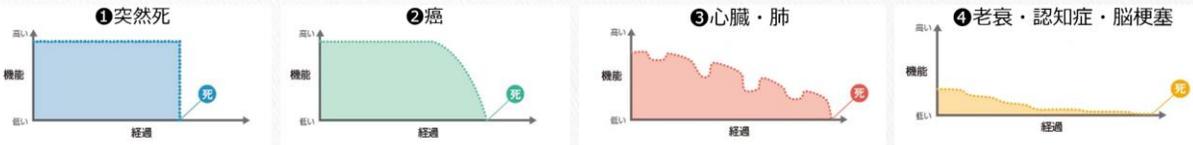


## 終末期の転帰を知った上で栄養ルートを選択しよう！

### 終末期の経過



一般的に終末期の経過は上記の4つのパターンに分類されます。①は突然死です。元気な状態から突然に死に至るパターンです。②は癌で、元気な状態から数日間で急激に状態が悪化して死に至ります。③は心不全や肺炎、COPDです。悪化して入退院を繰り返す度に徐々に機能が低下していき、最終的に死に至ります。④は老衰や認知症、脳梗塞、神経疾患などで、機能が低下した低空飛行の状態が長く続き、最終的に死に至るパターンです。

### 各栄養ルートのメリット・デメリット・転帰

経口摂取が不可能になった場合には、人工栄養を行うかどうか、またどういった方法で人工栄養を行うかを選ぶ必要性が出てきます。人工栄養を選択する際には、各方法におけるメリット、デメリットだけではなく、終末期までを視野に入れて、選んだ人工栄養方法が最終的にどのような転帰をたどるかについても知っておくことが重要になります。

腸を使う

④

↑

免疫力

↓

⑤

腸を使わない(点滴)

	メリット	デメリット
① 経口摂取	自然	水分:× 栄養:×
② 経鼻経管栄養	水分:○ 栄養:○ 簡便	(身体拘束) 違和感 → 自己抜去 嘔吐 → 誤嚥性肺炎 2週間交換 痰絡み(喀痰吸引)
③ 胃瘻	水分:○ 栄養:○ 6ヶ月交換 違和感(-) 自己抜去(-)	手術 造設不可(胃癌,胸郭内,低Alb血症,下痢) 嘔吐 → 誤嚥性肺炎 → 痰絡み(喀痰吸引)
④ 末梢点滴 皮下点滴	水分:○ 簡便	栄養:× 浮腫 血管確保に限界
⑤ 中心静脈 カテーテル	水分:○ 栄養:○	カテーテル感染 → 敗血症
⑥ 中心静脈 ポート	水分:○ 栄養:○ 低感染リスク	手術 造設不可(低Alb血症) カテーテル感染 → 敗血症 人工物感染 → 抜去術

#### ① 経口摂取の場合

脱水・低栄養が進行し、④の転帰をたどります。脱水により10日程で死に至ります。

#### ②、③ 経鼻経管、胃瘻の場合

栄養が入るためしばらくは安定して経過します。やがて誤嚥性肺炎を繰り返すようになり③の転帰をたどります。痰による窒息で①となる可能性があります。

#### ④ 末梢点滴・皮下点滴の場合

低栄養が進行し、④の転帰をたどります。脱水にはならないため、余命は週～月単位になります。

#### ⑤、⑥ 中心静脈栄養の場合

栄養が入るのでしばらくは安定して経過します。細菌感染から敗血症に至った場合、①に近い転帰をたどります。

【編集後記】栄養ルート選択について説明する際に終末期に辿るであろう転帰について話すと、患者や家族の選択が変わることがあります。近年、人生の最終段階の治療・ケアを選択することはACP(人生会議)として重要視されています。転帰についても説明するよう心掛けていきましょう。 NST委員会 小澤(総合診療科)、三松(外科)